題字は福島慎太郎初代理事長

公益財団法人
全国書美術振興会
会報
第 37 号
令和２年３月１日発行
発行者 （公財）全国書美術振興会
編集責任者 坂本敏史
東京都港区赤坂 2-11-1
デルックス溜池山王６階

私たちは「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

SHO JAPAN

オリンピックの記念書展を国立新美術館で

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を記念する展覧会、日本の自然と書の心「日本の書二〇〇人選～東京２０２０大会の開催を記念して～」を今年４月25日から東京・国立新美術館で開催することになった。

同大会は、スポーツの祭典であると同時に文化芸術の祭典でもあり、文化芸術の新たな価値を世界に発信・創出する好機でもある。この記念書展の開催を通じて、日本の伝統文化の結晶であり、現代の日本でも多くの愛好者を抱える、生活文化の一つでもある「書」を世界に発信しようと企画された。

本展覧会は、日本の代表的な現代書家約２００人がさまざまな表現様式によって制作した新作を中心に構成する。また、共生社会の実現を目指して、障がい者の力強い書や、小学生から大学生までの日本の次世代を担う児童や青少年の溌剌とした書も展示する。文房四宝（筆墨硯紙）などの書道用具も含め、日本の伝統文化である書道文化が、現代に息づき、継承されている形を総合的に展覧し、東京２０２０大会の機運醸成を図る。また、代表書家の出品作品の制作映像の放映や、デモンストレーション、ワークショップを通じて、訪日外国人にも理解できるように構成している。

主催する東京２０２０オリンピック・パラリンピック記念書展実行委員会は全国書美術振興会、全日本書道連盟、日本書道ユネスコ登録推進協議会、読売書法会、毎日書道会、産経国際書会で構成し、書道界を挙げての事業となった。また、本事業は文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会が推進する、東京２０２０大会を契機とする文化プログラムの中核的事業として展開される「日本博」の主催・共催型プロジェクトに採択され、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が推進する「東京２０２０ＮＩＰＰＯＮフェスティバル」にも採択された。

【開催要項】

名　称　日本の自然と書の心「日本の書二〇〇人選～東京２０２０大会の開催を記念して～」

会　期　令和２年４月25日（土）～５月10日（日）
休館日＝４月28日（火）、５月７日（木）

開館時間　10時～18時　金曜・土曜は20時まで
入場は閉館の30分前まで

会　場　国立新美術館 企画展示室１E
東京都港区六本木７－22－２

主　催　東京２０２０オリンピック・パラリンピック記念書展実行委員会、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

共　催　公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

後　援　読売新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、朝日新聞社、共同通信社

観覧料　大人一、〇〇〇円、大学生五〇〇円、高校生以下無料

実行委員会事務局
〒１０７－００５２
東京都港区赤坂２－11－１ デルックス溜池山王
公益財団法人全国書美術振興会内
TEL. ０３－３５６８－２０７１
FAX. ０３－３５６８－２０７２
E-mail：sho200@shobi.or.jp

【代表書家】 ２０２名の出品書家のうち21名
井茂圭洞、日比野光鳳、尾崎邑鵬、黒田賢一、新井光風、池田桂鳳、石飛博光、梅原清山、榎倉香邨、大井錦亭、杭迫柏樹、齋藤香坡、髙木聖雨、樽本樹邨、津金孝邦、辻元大雲、土橋靖子、仲川恭司、中野北溟、星　弘道、真神巍堂

【ホームページ】 http://shobi.or.jp/sho200/

日中書法名家交流展を開催

北京での開会式テープカット

「日中書法名家交流展」は中国国家画院書法篆刻院と全国書美術振興会が主催に、中国書法家協会と全日本書道連盟が共催に入り、日中の代表的な書家それぞれ30名が出品するという趣旨で、令和元年5月8日から12日まで池袋の東京芸術劇場で開催した。日本側の出品者は井茂圭洞、尾崎邑鵬、黒田賢一先生らOBも含め現代書道二十人展のメンバーが出品し、中国側も欧陽中石、沈鵬先生らトップクラスが一堂に集うという、27年ぶりの展覧会となった。この展覧会は日本と中国で開催することになっていたが、中国の主催団体の推進者が入れ替わるなどのいきさつがあり、中国での開催が危ぶまれていたが、中国側の蘇士樹・中国書法家協会主席の尽力もあり、北京で11月に開催した。北京の中華世紀壇芸術館で「中日書法名家作品展」というタイトルで、11月25日から開催し、開会式には、当会から髙木聖雨理事長が出席。主催の中国国際文化交流中心、中華世紀壇芸術中心、中国国家画院からは幹部が出席し、日本大使館の堤尚広公使も出席するなど盛大な開会式となった。中国側の30名は若干メンバーが入れ替わったが、日中入り混じった展示構成で、交流の揮毫会も行い、中国の新聞、テレビの取材も入り、大きく報道された。

第47回「日本の書展」

関西展から九州展まで直轄4展の総出品数は3678点、各会派の協力を得て、出品点数は昨年から94点増加した。また、入場者数も全展で1万4922人で396人増加している。

関西展

令和元年5月3日(金・祝)
～5月5日(日・祝)
会場　マイドームおおさか
主催　(公財)全国書美術振興会・産経新聞社
後援　文化庁
協賛　(公社)日本書芸院
ギャラリートーク
5月4日(土・祝)　吉川美恵子評議員(かな・現代書壇代表)
出品数は、巨匠15点、代表100点、委嘱38点、招待432点、秀抜選526点、合計111点、入場者数は約2000人だった。産経新聞紙面で展覧会紹介をしている。
会期初日の5月3日(金・祝)、シティプラザ大阪で、約370人の出席による開幕祝賀会を行った。主催者を代表して髙木聖雨理事長、田中壮一郎会長から挨拶があり、続いて産経新聞社伊藤富博事業本部長から共催者挨拶、井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶と乾杯の発声により祝宴に入った。

中部展

○第1会場
令和元年6月5日(水)
～6月9日(日)
会場　愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)
ギャラリートーク
6月8日(土)　伊藤昌石先生(漢字・委嘱)
○第2会場
令和元年6月4日(火)
～6月9日(日)
会場　名古屋市博物館
主催　(公財)全国書美術振興会・中日新聞社
後援　文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市・各県市教育委員会・東海テレビ放送協賛　(公社)中部日本書道会
愛知県美術館ギャラリーと名古屋市博物館で開催。出品数は、巨匠、代表の115点、委嘱18点、招待186点、秀抜選470点、合計789点、会期中の入場者数は2会場を合わせて2853人だった。中日新聞紙面での展覧会紹介、東海テレビ放送の放映があった。
6月5日(水)、名古屋東急ホテル「ヴェルサイユ」で約300人の出席による開幕祝賀会を行った。髙木理事長の主催者代表挨拶、共催の中日新聞社鷲見卓取締役事業担当から挨拶があった後、出品書家を代表して樽本樹邨顧問から挨拶があり、東海テレビ放送山口貢取締役事業局長の乾杯の発声で祝宴に入った。

東京展

令和元年6月13日(木)
～6月23日(日)
会場　国立新美術館
主催　(公財)全国書美術振興会・共同通信社
後援　文化庁
ギャラリートーク
6月15日(土)　宮負丁香評議員(漢字・委嘱)
6月22日(土)　齊藤紫香先生(かな・委嘱)
出品数は、巨匠15点、代表101点、委嘱46点、招待684点、秀抜選798点に加え、関西展、中部展、九州展の委嘱66点も同時に展示し、総展示数は1710点になった。入場者数は約8600人だった。
6月14日(金)、パレスホテル東京にて開幕祝賀会を行い、約560人の出席があった。髙木理事長、田中会長から主催者挨拶、共同通信社岩永陽一代表取締役常務の共催者挨拶、続いて衆議院議員、書道国会議員連盟会長の河村建夫氏から来賓祝辞、井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶と続き、衆議院議員、書道国会議員連盟会長代行の塩谷立氏の乾杯の発声で祝宴に入った。

九州展

令和元年6月27日(木)
～7月2日(火)
会場　福岡アジア美術館
主催　(公財)全国書美術振興会・西日本新聞社
後援　文化庁
ギャラリートーク
6月29日(土)　松清秀仙評議員(漢字・現代書壇代表)
今回も7階企画ギャラリーのみの会場となり、展示入れ替えでの開催となった。出品数は、巨匠、代表の116点、委嘱10点、招待137点、秀抜選217点、合計480点、会期中の入場者数は約1500人だった。西日本新聞紙面で展覧会紹介をしている。
6月28日(金)、ホテルオークラ福岡で開幕祝賀会を行い約110人の出席があった。髙木理事長、田中会長から主催者挨拶、西日本新聞社大久保明彦取締役営業本部長から共催者挨拶があり、九州国立博物館島谷弘幸館長からの来賓挨拶と乾杯の発声により祝宴に入った。

公募臨書（東京展会場内）

令和元年6月13日(木)
～6月23日(日)
会場　国立新美術館
書の基本である臨書に限った公募展で、今回が8回目。応募数は975点。当会役員で構成される審査委員10人による厳正な審査が行われ、その中から464点（漢字344点、かな108点、篆刻12点）が入選し、表装された作品は「日本の書展」東京展の会場内に前期と後期に分けて展示された。作品は展示終了後、入選證と一緒に入選者に届けられた。

巡回展

今回も「日本の書展」の直轄4展が終了後、巨匠、代表の作品116点が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国8会場を巡回している。地元作家の作品も併せて展示され、各地で貴重な展覧会となっている。

○富　山(北日本新聞社)
令和元年7月19日～7月22日
富山県民会館
○島　根(山陰中央新報社)
令和元年8月29日～9月2日
島根県立美術館
○青　森(東奥日報社)
令和元年9月6日～9月9日
News　TO－Oビル　3階
催事場
○広　島(中国新聞社)
令和元年10月3日～10月8日
福屋広島駅前店
○岡　山(山陽新聞社)
令和元年10月10日～10月15日
天満屋岡山店　6階葦川会館
○奈　良(奈良新聞社)
令和2年2月19日～2月23日
奈良県文化会館
○長　野(信濃毎日新聞社)
令和2年2月27日～3月3日
ながの東急百貨店
○茨　城(茨城新聞社)
令和2年4月11日～4月16日
ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)

子どもの毛筆体験教室「筆もじにトライ！」開催

令和元年8月5日(月)～7日(水)
会場　日本芸術院会館　講堂
昨年に続き、子どもを対象とした毛筆体験教室を拡大した規模で開催した。この企画は、国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金からの助成を受けて開催。今回は日本芸術院会館の協力を得て、講堂を無料で提供していただいた。3歳から小学校3年生まで、初めて筆に触れる参加者も含め、3日間で202名の参加があった。「文字の成り立ち」をクイズ形式で出題する、水書用紙で練習する、固形墨の墨磨り体験を行う、うちわには子どもの喜びそうな図柄を40種用意する、完成したうちわを持って記念撮影をするなど、子どもが楽しく書道体験や物作りができる様々な工夫をし、好評だった。

作ったうちわを持って

書写・書道教育推進協議会の活動報告

令和2年度から実施される次期学習指導要領では、その解説で「小学1、2学年において水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れる」と記述されているが、協議会では、昨年に引き続き「水書用筆等を活用した書写の指導法　指導者研修会（略称：水書指導研修会）」を5会場で開催している。協議会が作成した冊子やDVDを教材にして、主に小学校の教員を対象に、水書用筆と水書用紙を用いて実際に体験してもらっている。

■東京会場
令和元年6月16日(日)
会場　国立新美術館講堂
主催　書象会
約百名の参加
■福島会場
令和元年7月29日(月)
会場　いわき市中央台公民館
主催　福島県書写書道教育研究会
約百名の参加
■岩手会場
令和元年8月8日(木)
会場　国立大学法人岩手大学
主催　岩手県書写書道研究協議会
約五十名の参加
■福岡会場
令和元年8月21日(水)
会場　国立大学法人福岡教育大学
主催　福岡県書写書道教育研究会
約百名の参加
■愛知会場
令和2年1月31日(金)
会場　新名古屋市教育館
主催　愛知県書写書道教育研究会
約百名の参加
この研修会で用いられる水書用具（用筆、用紙、筆ならし）は全国書道用品生産連盟の協賛によっている。これからも、3年間、水書指導研修会を全国で実施していく。

日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動報告

協議会では2019年1月から、日本書道ユネスコ登録推進基金への寄付を、「記念品付き寄付」として広く呼びかけた。「記念品付き寄付」は1口500円の寄付に対し、協議会のロゴマークをデザインしたピンバッジ1個を贈呈するもので、12月27日現在で306団体から27、733件の申し込みがあり、13、831、500円の寄付金が寄せられた。この寄付金はピンバッジの製作費、発送費を差し引いて、協議会の広報活動、印刷物の製作、調査研究費、会議費、事務局運営費などの運営資金として活用していく。

ピンバッジ

展覧会案内

第48回「日本の書展」

関西展

令和2年5月2日(土)
～5月4日(月・祝)
マイドームおおさか(1・2階展示ホール)
午前10時～午後5時［最終日は午後4時まで］
主催　(公財)全国書美術振興会・産経新聞社
後援　文化庁
協賛　(公社)日本書芸院
○ギャラリートーク
5月3日(日・祝)午後2時～
福光幽石評議員(漢字・現代書壇代表)

中部展

令和2年6月3日(水)
～6月7日(日)
愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)
午前10時～午後6時［5日(金)は午後8時まで、最終日は午後4時まで、入館は各日とも閉館30分前まで］
主催　(公財)全国書美術振興会・中日新聞社
後援　文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市・各県市教育委員会・東海テレビ放送
協賛　(公社)中部日本書道会
○ギャラリートーク
6月6日(土)午後2時～
吉澤劉石先生(かな・現代書壇代表)

東京展　公募臨書

令和2年6月11日(木)
～6月21日(日)
〈16日(火)は休館日〉
国立新美術館(1階展示室1A・1D)
午前10時～午後6時[入場は午後5時30分まで]
主催　(公財)全国書美術振興会・共同通信社
後援　文化庁
○ギャラリートーク
6月13日(土)午後2時～
角元正燦理事(漢字・現代書壇代表)
6月20日(土)午後2時～
下谷洋子先生(かな・現代書壇代表)

九州展

令和2年6月25日(木)
～6月30日(火)
福岡アジア美術館(7階企画ギャラリー／8階交流ギャラリー)
午前9時半～午後6時[26日(金)および27日(土)は午後8時まで、最終日は午後4時まで、入館は各日とも閉館30分前まで]
主催　(公財)全国書美術振興会・西日本新聞社
後援　文化庁
○ギャラリートーク
6月27日(土)午後2時～
岩田海道評議員(漢字・委嘱)

巡回展

現代書壇巨匠・代表の全作品が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国を巡回。

富山　(北日本新聞社)
令和2年7月16日～7月19日
富山県民会館

鳥取　(山陰中央新報社)
令和2年8月28日～8月31日
米子市美術館

青森　(東奥日報社)
令和2年9月4日～9月7日
News TO-Oビル　3階催事場

広島　(中国新聞社)
令和2年10月1日～10月6日
福屋広島駅前店　8・9階催事場

岡山　(山陽新聞社)
令和2年10月14日～10月19日
天満屋岡山店　6階葦川会館

奈良　(奈良新聞社)
令和3年2月17日～2月21日
奈良県文化会館

長野　(信濃毎日新聞社)
令和3年3月4日～3月9日
ながの東急百貨店

茨城　(茨城新聞社)
令和3年4月10日～4月15日
ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)

※開催情報は変更となる場合があります

子どもの毛筆体験教室「筆もじにトライ！」(予定)

初めて毛筆に触れる子どもや毛筆経験が浅い子ども対象の体験教室を今年も開催する。色柄のうちわに、墨と筆で文字や線などを加えて、オリジナルのうちわを仕上げる。水書きシートを使ったり墨磨り体験をしたり、毛筆の楽しさを体験してもらう予定。

令和2年8月18日(火)～20日(木)の3日間
会場　日本芸術院会館　講堂
(上野恩賜公園内)
募集対象　3才～小学校3年生の子ども(保護者同伴必須)
参加費・材料費　無料
定員　各回30人
◇スケジュール
8月18日(火)
A 13時30分～14時40分
B 15時40分～16時50分
8月19日(水)
C 10時30分～11時40分
D 13時30分～14時40分
E 15時40分～16時50分
8月20日(木)
F 10時30分～11時40分
G 13時～14時10分
H 14時50分～16時
申込み受付期間
6月23日(火)から先着で受付
詳細は4月上旬、当会ホームページに掲載。申込みは専用申込みフォームのみにて受付。

全国書美術振興会　役員

代表理事・会長
田中壮一郎

代表理事・理事長
髙木　聖雨

業務執行理事・常務理事
石飛　博光　　黒田　賢一
田中　節山　　仲川　恭司
星　弘道

理事
有岡　郊崖　　市澤　静山
伊藤　一翔　　大平　匡昭
角元　正燦　　師田　久子
高木　厚人　　辻元　大雲
土橋　靖子　　中村　伸夫
真神　巍堂　　横山　煌平

監事
牛窪　梧十　　永守　蒼穹
和中　簡堂

※任期　平成30年12月3日～令和2年12月開催予定の定時評議員会の終結時

評議員
明石　聴濤　　石澤　桐雨
伊藤　仙游　　井上　映粧
井上　清雅　　井之上南岳
今関　敏子　　岩田　海道
岩永　栖邨　　植松　龍祥
海野　涛山　　大澤　城山
岡野　楠亭　　尾崎　蒼石
○加藤　義久　　鬼頭　翔雲
笹原　宏之　　霜鳥　秋則
鈴木　響泉　　関根　玉振
田頭　一舟　　○髙橋　利郎
田中　徹夫　　長井　素軒
西村　東軒　　深瀬　裕之
福光　幽石　　舟尾　圭碩
松清　秀仙　　松下　英風
宮負　丁香　　室井　玄聳
森上　光月　　山中　翠谷
山根　亙清　　山本　高邨
吉川美恵子　　吉澤　大淳
吉澤　鐵之　　吉田　成美

※任期　令和元年12月2日～令和5年12月開催予定の定時評議員会の終結時

名誉顧問
鈴木　勲　　荒船　清彦
日比野光鳳　　井茂　圭洞
尾崎　邑鵬　　津金　孝邦

顧問
新井　光風　　池田　桂鳳
梅原　清山　　榎倉　香邨
大井　錦亭　　杭迫　柏樹
樽本　樹邨　　中野　北溟

参事
赤江　華城　　飯髙　和子
石田　雲鶴　　一色　白泉
今村　桂山　　岩井　韻亭
植松　弘祥　　江口　大象
江幡　春涛　　大西きくゑ
岡田　契雪　　加藤　子華
芝　松翠　　清水　透石
師村　妙石　　鈴木　一敬
鈴木　春朝　　辻元　邑園
内藤　富卿　　中川　裕皓
中林　蕗風　　中村　天香
楢崎　華祥　　西村　自耕
原田　上　　藤岡　都逕
前島　泉洲　　松塚　玲糸
三神　榮軒　　宮崎　葵光
村井　虹城　　村上　俄山
毛利　柳村　　望月　和風
森川　星葉　　八木　山鈴
山田　勝香　　山本　悠雲
吉川　蕉仙

※任期　平成30年12月3日～

書美術功労者の顕彰

恩賜賞・日本芸術院賞を受賞された真神巍堂理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

近年物故者

平成31年2月1日以降

次の役員の先生が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

小山やす子先生(名誉顧問)
平成31年2月27日　94歳

事務所のご案内
〒107-0052
東京都港区赤坂2-11-1デルックス溜池山王6階
TEL. 03-3568-2071
FAX. 03-3568-2072
ホームページ http://shobi.or.jp/
メールアドレス info@shobi.or.jp